

地域一帯の字名の統一的変更により、地域の一体感醸成と総合的なまちづくりを推進



問い合わせ先 淡路市企画政策部企業誘致推進課

☎ 0799-64-0001 ■ <http://www.city.awaji.lg.jp/soshiki/machisei/siyuuti-hana.html>

「淡路島の玄関口」にふさわしいまちづくりに向け、採土跡地など地域一帯の字を「大字夢舞台」に統一的に変更し、地域の一体感醸成とイメージアップを図り、インフラ整備や企業誘致などの総合的なまちづくりを推進



↑ 「大字夢舞台」の全景
➡ 淡路島国営明石海峡公園 ➡ 淡路夢舞台国際会議場

取組の背景 採土跡地を含む地域の一体感醸成やイメージアップが課題に

- 淡路市北部には、関西国際空港用地の埋め立てに伴って発生した広大な「採土跡地」があり、平成12年に兵庫県及び淡路島1市10町により開催された「淡路花博ジャパンフローラ」の際には、淡路島国営明石海峡公園、淡路夢舞台国際会議場、日本最大級の植物館、3,000人収容の野外劇場などが整備された。その後、採土跡地の一部の約24ヘクタールの土地を淡路市が取得し、幹線道路などのインフラ整備を行うとともに、企業誘致を行ってきた。
- 淡路市は、明石海峡大橋で本州と直結する「淡路島の玄関口」であり、大阪・神戸からのアクセスが良いため、島外からの定住促進や交流人口の拡大が期待できるとともに、海に囲まれたリゾート感あふれる立地や豊富な海産物・農産物などが魅力である。これらにふさわしい総合的なまちづくりを推進する上で、更なる企業誘致や住宅整備などの積極的な展開や、採土跡地を含めた地域全体の一体感醸成、イメージアップが課題となっていた。

取組の概要 市が主体的に、地域一帯の字名を「大字夢舞台」に統一的に変更

- 第2次一括法による地方自治法の改正により、町・字区域の変更などに関する事務が市へ移譲され、市が主体的に字区域の変更を行うことが可能となったことから、当該地域における字区域の変更を行うため、平成25年5月頃から、土地の所有者である、淡路島国営明石海峡公園、国道事務所、法務局及び兵庫県などと調整を行い、同年10月に協議が整った。
- 採土跡地がある「大字南鶴崎」及び国営公園がある「大字楠本」における区域の一部の約96ヘクタールの土地における字の区域を変更する議案を平成25年12月議会に上程し、同月の議決を経て、平成26年1月、地方自治法第260条第2項の規定による告示を行い、地域一帯の字の区域名を「大字夢舞台」に統一的に変更した。
- 採土跡地の一部を「夢舞台サスティナブル・パーク」と名付けて総合的なまちづくり構想を展開することとし、当該地域において、働く場所(企業誘致ゾーン)をつくり、そこで働く人が安心して暮らせる住環境(医療・福祉ゾーン、住宅・商業ゾーン)を整備することにより、職と住の一体化したコンパクトシティの実現を目指す取組を推進している。

取組の成果 地域の一体感醸成などを実現し、総合的なまちづくりを推進

- コンパクトシティとしての地域の一体感醸成と、地域全体のイメージアップを実現し、病院・住宅地・商業施設・福祉施設の誘致などを総合的に展開し、景観に配慮した緑あふれるまちづくりを積極的に推進している。
- 平成27年9月までに、計6社の企業(総合病院、調剤薬局、製造業(自動車部品、鉄鋼、ミキサー、婦人靴))の誘致が決定し、新規雇用者数は計400人程度となる見込みである。
- 字名を「大字夢舞台」に変更したことで、立地した企業からは、「夢のある舞台への進出というコンセプトを用いることができ、企業のイメージアップにつながる」などの評価を受けている。また、観光客からは、「この素晴らしい環境で生活してみたい」などの評価を受けている。



医療・福祉ゾーンに誘致した総合病院



企業誘致ゾーンに誘致した企業
(本社を移転し、新工場を整備。隣接地に社員住宅(50戸)を建設)

「夢舞台サスティナブル・パーク」のゾーン計画



地方分権改革との関連

- 従来、町・字区域の変更などについては都道府県への届出が必要であったが、平成23年8月の第2次一括法により、地方自治法が改正され、同届出が廃止されるとともに、町・字区域の変更などに関する事務は市町村に移譲された。この結果、地域の実情に精通し、まちづくりを担う市が主体となり、字区域の変更を行うことが可能となった。